

日刊 建設工業新聞

平成 29 年 7 月 19 日 (水曜日)

九州豪雨

官民総力で国民の期待に応えて

自民党の足立敏之参院議員は、記録的豪雨の被害を受けた九州北部の被災地を

15日から17日にかけて視察した。17日に福岡県朝倉市を視察した足立氏は、県管理河川の応急復旧工事の国による権限代行や、ため池の老朽化対策、小石原川ダムの早期完成の必要性を強調。国土交通省や建設業界に対し、「総力戦で国民の期待に応えてほしい」と話し、「国政での最大のサポート」を約束した。

足立氏は15日に大分県日田市の大分県建設業協会日田支部を訪れ、土砂崩れで川がせき止められダム状態になった小野地区や、流失したJR久大線の花月川橋梁などを視察。16日に長崎県壱岐市で長崎県建設業協会壱岐支部の幹部らと道路の被災箇所や土砂崩れ現場を回り、17日に朝倉市に入った。

朝倉市では水資源機構筑



後川局の元永秀局長らの説明を受け、防災操作によって下流の水位を下げ、1万数千立方メートルに及ぶ大量の流木をダム湖で捕捉した寺内ダムや、同機構が進める小石原川ダム建設工事の現場を視察した。

堤体盛り立てに向け監査廊の工事を進めていた小石原川ダムでは、水路に大量の流木が流れ込み、工用道路が一部崩落。堤体河床が20センチほどの深さまで浸水する被害が発生した。本体工事を担当する鹿島・竹中土木・三井住友建設は6日に現地踏査を行って7日

に水抜きに着手。たまった泥の処理などを行った後、14日に通常の工事を再開した。

同氏は工事用道路3カ所の仮復旧も今月中に終え、堤体盛り立て工事の本格化に備える。伊阪大輔工事事務所長は、今回の被災は全体の工期には影響はないとし、「待ち望まれているダム。地元希望に沿うよう、発注者とも一体となって工事に取り組む」と話した。

福岡県土木組合連合会朝倉支部を訪れた足立氏は平田立身支部長らに被害や応急復旧の状況などを聞いた。平田支部長は、支部の全会員企業27社に、県と協定を結んだ企業を加えた42社で仮復旧に当たっている状況を説明。「やりくりしながら何とか対応している。保有重機が足りないのでもりすで調達している状態だ。支部の幹部も自ら現場に入っている」と述べ、足立氏は「建設会社力の見せどころ。全力で対応を」

と激励した。引き続き同支部幹部らの案内で川沿いの校舎が崩れ落ちた中学校や流木が流れ込んだ田畑、山田地区のため池決壊箇所、道路が冠水し孤立した松末小学校がある杷木星丸地区などを回った。

視察を終えた足立氏は赤谷川など県管理河川の被災について「経験したことのない大きな被害だ。県知事による直轄事業での復旧要請は理解できる」とし、国

による早期の事業化の必要性を指摘。小石原川ダムについては「一日も早く仕上げで効果が出るようにしてほしい」と注文を付け、農業用ため池の決壊には「ショックを受けた。老朽化対策をしっかりと行い、あのよくな大きな被害を出さないようにしなければならぬ」と強調した。

国土交通省には、技術力



ため池の決壊現場で説明を受ける足立氏（手前）

足立参院議員が被災地視察

による地元自治体への支援を期待。復旧の担い手である建設業界に対しては「大手、中堅、地元の建設業者を総動員し、役割分担してしっかりと対応してほしい」と話した。